

## 小型ビームトロール網によって推定した 外来魚の生息状況

井出 充彦

### ◆背景・目的

外来魚(ブルーギル・オオクチバス)の生息状況を把握するため、水草帯で外来魚を効率的に採捕できることが確認された小型ビームトロール網を用い、琵琶湖沿岸の水草帯で外来魚を含む魚類等の採捕調査を行った。

### ◆成果の内容・特徴

- 魚類等の採捕は、ビームの長さ3m、網の高さ2.5mの小型ビームトロール網によった。調査期間は平成16年秋季の12日間であった。曳網回数は南湖では25回、北湖では71回であった。1回の曳網時間は3分とした。曳網は小型動力船の船尾に取り付けた長さ30mのロープの先端に網をつなぎ、速度0.1~0.5m/sで航行して行った。
- その結果、曳網面積あたりの採捕尾数(重量)の平均値は、ブルーギルでは、南湖で0.52尾/m<sup>2</sup>(2.56g/m<sup>2</sup>)、北湖で0.07尾/m<sup>2</sup>(0.21g/m<sup>2</sup>)であった。オオクチバスでは、南湖で0.05尾/m<sup>2</sup>(0.19g/m<sup>2</sup>)、北湖で0.03尾/m<sup>2</sup>(0.51g/m<sup>2</sup>)であった。採捕された魚類の優占種は、重量で南湖ではブルーギル、北湖ではオオクチバスであった。

### ◆成果の活用・留意点

- この方法による結果を年毎に比較することで、外来魚の生息動向の予測や駆除事業の効果評価を行うことが可能と考えられる。

